

日本感情心理学会 第21回大会

大会プログラム



会期：2013年5月11日（土）～12日

会場：東北大学川内キャンパス

大会実行委員会委員長 阿部恒之

大会参加者へのご案内

1.大会受付

場所 東北大学川内南キャンパス文1 講義室前ホワイエ

時間 5月11日(土) 9時~18時

5月12日(日) 9時~16時

[事前予約参加者の方]*

まず受付にお立ち寄りください。受付でお名前をお聞きし、予約参加について確認いたします。その後、参加証をお渡しいたします。

*この部分、事前の案内で間違えて伝えておりました。お詫びするとともに訂正させていただきます。

[当日参加(非会員を含む)の方]

当日参加申込票にご記入のうえ、大会参加費を添えて受付にお申し込みください。参加証と領収書をお渡しいたします。

大会参加費(当日会費)

正会員(大学院生を含む)	7,000 円
一般非会員	8,000 円
学部生会費	4,000 円
学部生非会員(連名者含む)	6,000 円

懇親会費(当日会費)

一般(学生以外)	7,000 円
学生(大学院生含む)	5,000 円

2. 総会・会議

日本感情心理学会の総会は2日目の昼休み(12:00~12:30)に文1講義室で行います。理事会改選の報告もありますので、皆様ご参集ください。

[関係者の方へ]

理事会は大会前日(5月10日)の18時からホテル大観荘(<http://www.taikanso.co.jp/>)で開催いたします。また、理事の方々は大会1日目(5月11日)の16時45分に文学研究科棟2階大会議室にお集まりください。

編集委員会は1日目の昼休み(12:00~13:00)に文学研究科棟2階の大会議室で開催する予定です。

3.懇親会

文系食堂にて1日目の18時から開催する予定です(20時終了予定)。学会場からは歩いてすぐのところです。おいしい宮城の地酒や東北のお菓子、手作りの特別メニューなどを取り揃えて、皆さんのお越しをお待ちしています。

4.昼食について

1日目の昼食は文系食堂およびパンショップでお摂りください。また、少し離れた(徒歩5分)ところには川内北キャンパスの食堂や購買もあります。それらの他には近隣に食事をするところはありません。会場1階には飲料の自動販売機が複数台あります。

2日目の昼食時は文系食堂は閉店しております。ただし、川内北キャンパスの生協食堂や購買部は昼の時間帯のみ営業しております。

また、両日とも、実行委員会が自信を持ってお勧めするお弁当を1000円にて販売します。ご予約いただいた方優先で、当日販売は僅少ですが、早い者勝ち。宮城の美味しいものの詰まったお弁当をぜひお試しください。

5. 展示

文2講義室(休憩室)、135講義室(ポスター会場)、文1講義室と文2講義室前のホワイエに、展示スペースを設ける予定です。

6. WEB 環境

実行委員会で特に準備はしませんが、eduroam 参加機関の方はアカウント取得により本校敷地内で無線 LAN が使用できる場所(付属図書館、文系食堂など)があります(<http://www.eduroam.jp/>)。

7. クローク

クロークは133講義室(文学研究科棟1階)に設けております。学会開催期間中、お荷物をお預かりいたしますが、貴重品は身につけてお持ちください。懇親会の間は、懇親会会場にお荷物をお持ちください。

8. 学会大会における行事

・特別講演

5月11日（土曜日）13:00～14:30 文1講義室

演者 原 塑（東北大学大学院文学研究科）

司会 坂井信之（東北大学大学院文学研究科）

指定討論者 荒川歩（武蔵野美術大学）

刑法と感情

—感情に基づく法的判断の健全性—

裁判員制度では、有権者の中から抽選によって裁判員を選び出し、殺人や傷害致死など重大な犯罪に対する裁判に直接関与させている。裁判員は公判に立ち会い、裁判官とともに評議を行い、有罪か無罪か、および有罪の場合にはさらにどの程度の量刑が適切かを決定する。このように、法的判断を下す現場に一般の人々が参加する必要があると考えられるのは、専門家が下す法的判断が一般の人々の道徳的判断からしばしば大きく乖離し、その結果、一般の人々からの支持を司法制度が失っていく恐れがあるからだ。他方、一般の人々が下す道徳的判断が行き当たりばったりであったり、無秩序であったりすれば、司法への市民参加が進んだとしても、司法制度は社会からの信頼を失っていくことになる。

このように、司法制度に一般の人々が直接参加することが正当化されるのは、一般の人々が下す道徳的・法的判断が、ある種の合理性をもつことが期待される限りにおいてである。また、一般の人々の判断にみられる合理性は、弁護士・検事・判事など法の専門家の判断が示す合理性とは異なるはずだ。そこで、このような一般の人々の判断にみられる合理性を、通常の合理性（rationality）と区別して、健全性（reasonableness）と呼ぶことにしたい。

アリストテレスを始めとする哲学史研究や政治哲学上の様々な著作で著名なアメリカの哲学者マーサ・ヌスバウムは、英米法の伝統に依拠して、感情に導かれた一般の人々の判断の健全性を検討する研究を行っている。ヌスバウムは、一方で、法的判断を様々な感情によって根拠づけることの重要性を強調するが、他方で、感情の中には根本的に健全性を欠いたものがあり、そのような感情を法的判断の根拠づけに使用すべきではないと主張する。また、このような健全性を欠いた感情の典型例が嫌悪であるとされる。

この発表では、ヌスバウムの法哲学上の研究を批判的に検討し、また感情に関する心理学・神経科学上の研究を考察しながら、嫌悪を含め感情に導かれた判断が健全性をもつためのいくつかの条件を明らかにする。この考察に基づいて、司法への市民参加を進めるための提言をしたい。

・仙台大会記念講演

5月12日（日曜日）11:00～12:00 文1講義室

演者 今村文彦（東北大学災害科学国際研究所副所長）

司会 阿部恒之（東北大学大学院文学研究科）

「東日本大震災における科学の役割～心理学への期待」

従来の評価を大きく上回る規模の地震により巨大津波が発生し、広域で甚大な被害が生じてしまった。そこには、M9の連動した断層破壊があり、海溝での50mを超えるすべり量が第二段階の巨大な津波を発生したと考えられている。従来、三陸沖や宮城県沖で繰り返されていた地震や津波と大きく違うメカニズムであった。しかも、福島原発での事故も重なり、人類が過去経験のない未曾有の影響を与える複合災害の姿となっている。

従来の科学および技術の限界を露呈した中、抜本的な見直しが現在始まっている。自然科学においては、過去の歴史に基づく地震および津波評価手法の問題点を克服する取組、複合災害の実態を解明し評価する試み、さらに、人間・社会科学として、情報発信・認知、避難行動さらには安全社会学の構築に向けての課題整理と解決の取組がある。当時の津波情報の内容、これに対する認知プロセスや対応行動、避難途中での問題などが検討されている。また、過去の被災経験から蓄積された災害文化が十分伝承できなかった状況もあった。今回の経験や教訓を取り入れた災害文化の形成も重要な課題である。本講演の中では、このような活動の一部を紹介させていただき、さらに、地域での復興や今後の防災・減災に資するため、学際的研究である実践的防災学の必要性と期待をまとめたい。

・シンポジウム

5月12日（日曜日）14：30～16:00 文1 講義室

企画 中村真（宇都宮大学）

司会 内山伊知郎（同志社大学）

話題提供者 大平英樹（名古屋大学）

小川時洋（科学警察研究所）

谷口高士（大阪学院大学）

宇津木成介（神戸大学）

中村真（宇都宮大学）

指定討論者 大坊郁夫（東京未来大学）

「感情概念の領域横断的検討：研究の歴史と方法の観点から」

感情研究の分野では、研究者の多くが、明確な定義の欠如という状態に対して特に支障を感じることなく、活発に研究を行っている。たしかに、異なる研究方法によって、多様な「感情」の、多様な側面についての理解が深まることは重要であるが、同時に、個々の研究を体系的にとらえ、全体として総合的に理解することもまた重要である。感情研究の実りある発展のためには、研究対象となる概念を明確化し、共有することが重要である。

概念の明確化のためには、心理学の下位領域において、感情がどのように定義され、用いられているのかを、古典から最新の研究論文にわたる文献研究、研究者へのインタビュー、研究者への質問紙による調査などとともに、研究の歴史と研究方法の観点から分析し、整理することが考えられる。

このシンポジウムでは、このような観点から、学術用語としてわれわれ研究者が感情、および関連概念をどのように使用して来ているのかについて検討を始めることを提案したい。

9. 発表者へのご連絡

[口頭発表の方へ]

口頭発表は 1 題 15 分(質疑を含む)です。10 分で一鈴、12 分で二鈴、質疑応答を含む発表終了となる 15 分に三鈴とする予定です。持ち時間内の時間配分は発表者におまかせします。会場にパソコンを用意しますので、USB メモリ等を用いてあらかじめパワーポイントの原稿等を会場のパソコンにコピーして使用していただくことができます。準備しているパソコンには Windows7 と Microsoft Office 2010 がインストールされています。発表者のご使用のものとは OS やパワーポイントのバージョンが異なる場合がありますので、下位互換を念頭に、特殊な効果が必要としない原稿を作製してください。ご自分のパソコンを持ち込まれても結構ですが、大会実行委員会ではお持ちこみのパソコンの使用によるトラブルについては責任を持ちかねます。設置等にかかわる時間はすべて発表時間に算入させていただきます(実行委員会委員の経験から、Mac のノートパソコンの接続は問題なく可能です)。

[ポスター発表の方へ]

ポスターを貼るボードのサイズは 90cm×210cm です。ただし、ポスターの下部はデッドスペースとお考えください。ポスター貼付用のピンなどは受付で用意しています。

[共通] *5月19日までに発表論文をご提出願います。詳細はwebで。

配付資料等は事前にご準備ください。会場内で複写機は使用できません(川内北キャンパス購買まで行けば複写機の使用は可能です)。

発表予定者(プログラム上での筆頭者)が何らかの事情で来場できない場合で、連名発表者が代理発表を希望される場合は事前に実行委員会にお申し出ください。

なお、研究発表が成立するためには発表予定者が当日に感情心理学会の正会員であることが必要です。1号通信で、「非会員は、非会員の学会参加費の納入により、連名発表者となることができます。この場合、主たる発表者は、参加費納入の際に非会員の連名発表者の学会参加費をあわせてご入金ください。」とお願いをしております。非会員が連名発表者となるためには、当日に開催場所に来られるかどうかにはかかわらず、非会員の学会参加費を事前に納入している必要があります。非会員の学会参加費が支払われていない場合、研究発表は成立いたしませんのでご注意ください。

また、一旦ご入金いただいた費用の返金については対応することができません。予めご了承のほどをお願いいたします。

10. 会場までのアクセス

東北大学川内南キャンパスへの交通手段*

[仙台市バスご利用の場合]

仙台駅前の西口バスプール9番のりば(仙台駅2階コンコースからペDESTリアンデッキを経由して、階段を降りていただくこととなります)から出るバスのうち71x 系統のバスはすべて会場まで参ります。「東北大川内キャンパス萩ホール前」で下車してください(約15分)。料金は後払いで180円となります。土日ともに8~9時台は1時間あたり9便ほどありますが、その後は3~4便になりますので、ご注意ください。下車後、進行方向に歩くと三叉路の信号があります。信号の付近に看板をおいておりますので、その指示に従い、南へ2~3分ほど歩くと会場となります。



[タクシーご利用の場合]

仙台駅よりタクシーをご利用の場合、「東北大学の川内ロータリー」とお伝えいただくと、10分弱1200円程度で、会場付近までお越しいただけます。川内ロータリー付近には案内板を設置しておきます。

駐車場の準備はありません。お車でのご来場はお控えください。

*お詫び

①5月12日は、第23回仙台国際ハーフマラソン大会が開催されます。9:15～11:40の時間帯に交通規制が行われ、仙台駅と大会会場を直接結ぶ区間が車両通行止めとなります(<http://www.sendaihalf.com/ja/index.html> 左側緑色の「交通規制のお知らせ」ご参照)。詳細は、大会会場でもご案内いたしますが、5月12日の移動については、どうぞご留意願います。

仙台駅から大会会場までは、2km少々ですので徒歩でご来場いただくか、タクシーの場合は以下地図の迂回路をお通り下さい。その場合、「愛宕上杉通を北上して国道48号を西へ。牛越橋経由で川内郵便局前まで」とご指示下さい。川内郵便局前から北キャンパス内を歩いて、徒歩で約300m南に下った南キャンパスの会場にお越しください。ご迷惑をおかけしてすみません。



②4月より会場近辺で講義棟の新築工事が始まってしまいました。会期中は工事を休止してもらいますので直接の問題はないと思いますが、マラソンのみならず、何かとご不便をおかけすることになり、申し訳ありません。

大会会場近辺の地図

下記図の通りです。ただし、口頭発表会場、休憩室はいずれも建物の2F となっておりますので、ご注意ください。



11. 大会スケジュール

	大会0日目 5月10日(金)	大会1日目 5月11日(土)	大会2日目 5月12日(日)
9:00		受付開始	受付開始
10:00		開会 口頭発表① (文1)	口頭発表③ (文1)
11:00			仙台大会記念講演 東日本大震災における科学の役割～心理学への期待 (文1)
12:00	仙台駅西口バスプール集合 震災復興特別プログラム 「防災・復興研究会」 (南三陸町)	休憩	総会 (文1)
13:00		編集委員会 (大会議室)	休憩
14:00		特別講演 刑法と感情 —感情に基づく法的判断の健全性— (文1)	ポスター発表② (135教室)
15:00		休憩	シンポジウム 感情概念の領域横断的検討： 研究の歴史と方法の観点から (文1)
16:00		口頭発表② (文1)	閉会
17:00		ポスター発表① (135教室)	
18:00		理事会 (大会議室)	
19:00	仙台駅前解散	移動	
20:00		懇親会 (文系食堂)	

凡例	前ページの文学研究科棟1F	前ページの文学部第1講義室
	前ページの文学研究科棟2F	

12. 研究発表（所属は研究発表申込時点での所属です）

5月11日（土曜日）10:00～12:00 口頭発表① 文学部第一講義室

座長 佐藤 拓（いわき明星大学）

- S01 小中学生用攻撃性尺度短縮版の開発
谷 伊織（名古屋大学）
- S02 ユーモアの聞き手の不利益とユーモア認知が弁解者の性格特性の推測に与える影響
菊地史倫（公益財団法人鉄道総合研究所）
佐藤 拓（いわき明星大学）阿部恒之（東北大学）
- S03 抑うつ傾向者における具体的な自伝的記憶の減少—AMT 教示法の検討—
松本 昇（筑波大学）望月 聡（同）
- S04 知覚制御理論における感情の機能に関する一考察
金築 優（帝京平成大学）
- S05 笑いがストレスフルな状況への認知的評価に及ぼす影響
金井雅仁（筑波大学）湯川進太郎（同）
- S06 賞賛的アサーションの効用：ソーシャル・サポート、自己効力感、幸福感との関連
佐藤 拓（いわき明星大学）仁平義明（白鷗大学）
- S07 覚醒水準と唾液中コルチゾールのサーカディアンリズム—生活リズムの観点から
小形佳祐（東北大学）阿部恒之（同）
- S08 ゴミの不法投棄抑制要因と嫌悪感情
中俣友子（東北大学）平野大二郎（同）阿部恒之（同）

5月11日（土曜日）14:45～16:15 口頭発表② 文学部第一講義室

座長 河島三幸（株式会社カネボウ化粧品）

- S09 日本人と中国人の親密なコミュニケーションは何が違うのか？
—未知関係と友人関係を対象にした検討—
木村昌紀（神戸女学院大学）毛 新華（神戸学院大学）
- S10 東日本大震災・復興活動に対する感情的地域差
Wiwattanapantuwong, Juthatip（東北大学）
本多明生（東北福祉大学）阿部恒之（東北大学）
- S11 認知的負荷が賭けの無謀さ・手堅さに及ぼす影響
高田琢弘（筑波大学）湯川進太郎（同）

- S12 情動喚起画像の文脈的複雑性の評価—驚愕反射を用いて—
藤村友美（独立行政法人科学技術振興機構 ERATO 岡ノ谷情動情報プロジェクト）
岡ノ谷一夫（同）
- S13 青少年教育施設における長期集団宿泊活動が子どもの情動知能に及ぼす影響
庄子佳吾（国立花山青少年自然の家）
- S14 化粧品の感触が使用者の感情に与える影響—化粧品使用時の感情評価尺度を用いた検討—
河島三幸（株式会社カネボウ化粧品 価値創成研究所） 引間理恵（同）

5月11日（土曜日）16.15～17.45 ポスター発表① 文学研究科棟 135 教室
座長 本多明生（東北福祉大学）

- P01 被災地における中学生の不安感情に関する研究—東日本大震災直後の調査結果を中心に—
藤井義久（岩手大学）
- P02 友人間の競争事態における感情表出の制御
山本恭子（神戸学院大学）
- P03 原子力発電に対する態度研究の現在
本多明生（東北福祉大学） Wiwattanapantuwong, Juthatip（東北大学）
阿部恒之（東北大学）
- P04 道徳的アイデンティティと非道徳的行動に対する善悪判断の関係
寺井朋子（武庫川女子大学） 高井弘弥（同）
- P05 羞恥表出者に対する観察者のパーソナリティ評価
—評価の因子構造および表情による評価の違い—
福田哲也（広島大学） 樋口匡貴（同） 蔵永 瞳（同）
- P06 主観的感情特性尺度の作成—基本感情に基づいた感情特性の各特徴について—
平井 花（学習院大学）
- P07 児童期における感情的視点取得能力と学校肯定感、適応感の関係
本間優子（新潟青陵大学） 内山伊知郎（同志社大学）
- P08 大学生のソーシャルネットワーキングサービスの利用とEQSの相関
宇津木成介（神戸大学） 繁野 茜（同） 松本絵理子（同）
- P09 印象判断と投資判断にあらわれる学習性不信感の比較
鈴木敦命（名古屋大学） 本間喜子（同）
- P10 状況による安堵感の差異
柴田利男（北星学園大学）
- P11 尊敬関連感情の概念構造
武藤世良（東京大学／日本学術振興会）

- P12 仮設住宅の環境色彩変化が居住者の感情状態および周辺住民の印象評価に与える影響
—2011年東北地方太平洋沖地震による被災地域からの一事例報告—
 蓑内絵梨（JFE 鋼板株式会社）大岸英夫（JFE 鋼板株式会社）
 松原千春（BASF ジャパン株式会社）森下洋子（BASF ジャパン株式会社）
 鈴木結花（東北大学）行場次朗（東北大学）

5月12日（日曜日）10.00～11.00 口頭発表③ 文学部第一講義室

座長 手塚洋介（大阪体育大学）

- S15 感情が会話行動に与える影響—他者の会話行動と性差に着目した検討—
 藤原 健（京都大学）大坊郁夫（東京未来大学）
- S16 悔しさの持続に関する探索的研究—大学生スポーツ選手を対象に—
 手塚洋介（大阪体育大学）
- S17 デジタルゲームが感情経験に与える影響
 木村知宏（東京大学）
- S18 ワインボトルを用いた視線のカスケードモデルの検討
 大沼卓也（東北大学）荒木茂樹（サッポロビール株式会社）坂井信之（東北大学）

5月12日（日曜日）13.00～14.30 ポスター発表② 文学研究科棟 135 教室

座長 伊藤義徳（琉球大学）

- P13 FAST 学習が表情識別に与える効果—初報—
 趙 紫薇（神戸大学）米谷 淳（同）
- P14 反すうにおけるワーキングメモリ内容の更新過程
 西村春輝（筑波大学）望月 聡（同）
- P15 日本語版 Dickman Impulsivity Inventory の信頼性と妥当性の検討
 小橋真理子（立正大学）井田政則（同）
- P16 身体の覚醒の低下はサイコパシーとリスク選択を結びつけるか—媒介分析による検討—
 大隅尚広（日本学術振興会特別研究員／慶應義塾大学）
 梅田 聡（慶應義塾大学）大平英樹（名古屋大学）
- P17 大学生の震災ボランティア参加を左右する要因の検討
 木野和代（宮城学院女子大学）
- P18 （発表取消）

- P19 笑いが身体的・精神的健康に及ぼす影響
藤原裕弥（東亜大学）
- P20 「居場所感」尺度の作成
岡本卓也（信州大学） 口田江里（同）
- P21 親密な他者に対する攻撃行動が生じるメカニズムの検討
伊藤義徳（琉球大学） 新垣美羽（医療法人那覇西会 那覇西クリニック）
- P22 情動はどのような神経機構によりその後の選択行動を導くか
—機能的磁気共鳴画像法（fMRI）による検討—
片平健太郎（JST ERATO 岡ノ谷情動情報プロジェクト／理研 BSI／東京大学）
松田佳尚（JST ERATO 岡ノ谷情動情報プロジェクト／理研 BSI）
藤村友美（JST ERATO 岡ノ谷情動情報プロジェクト／理研 BSI）
上野賢一（理研 BSI） 浅水屋剛（理研 BSI） 鈴木千里（理研 BSI） 程 康（理研 BSI）
岡ノ谷一夫（JST ERATO 岡ノ谷情動情報プロジェクト／理研 BSI／東京大学）
岡田真人（JST ERATO 岡ノ谷情動情報プロジェクト／理研 BSI／東京大学）
- P23 大学教員は親よりイタい・サムい・ウザくない
—大学生における身体表現性対人不快感の研究(1)—
生駒 忍（川村学園女子大学）
- P24 感謝の対象に関する検討
戸梶亜紀彦（東洋大学）

5月11日（土曜日） 口頭発表①

S01 小中学生用攻撃性尺度短縮版の開発

谷 伊織（名古屋大学）

近年子どものメンタルヘルスに関心が集まり、子どもを対象とした調査が多く行われている。子どもを対象にした場合、成人と比較して負担の少ない測定が求められる。そこで本研究では、小学校3年生から中学校2年生までの4683名のデータを分析し、子ども用の攻撃性を測定する尺度であるHAQ-Cについて、短縮版の作成と検討を行った。まず、IRTを適用した分析をもとに検討を行い、短縮版の項目として8項目が選択された。また、信頼性や因子的妥当性、構成概念妥当性の検討が行われ、いずれも十分な値が示された。

S02 ユーモアの聞き手の不利益とユーモア認知が弁解者の性格特性の推測に与える影響

菊地史倫（公益財団法人鉄道総合研究所）

佐藤 拓（いわき明星大学）阿部恒之（東北大学）

過失の弁解としてユーモアを話す人の性格特性を、聞き手がどのように評価するかについて検討した。（1）聞き手の不利益の大きさと（2）ユーモア認知の程度が、ユーモアの話手の性格特性の推測評価に与える影響を検討した結果、弁解としてのユーモアをおもしろいと思った聞き手は、話し手のポジティブな性格特性を高く評価していた。したがって、話し手の性格特性の推測にはユーモア認知の影響が大きいことが示唆された。

S03 抑うつ傾向者における具体的な自伝的記憶の減少—AMT 教示法の検討—

松本 昇（筑波大学）望月 聡（同）

本研究ではアナログ研究向けのAMT（Autobiographical Memory Test）として、“具体的なエピソードのほうが良いですが、思い出せそうになれば、あいまいなものでも構いません”と具体的な記憶の報告を任意とする教示を行った。従来の教示では抑うつ傾向群と非抑うつ群の具体的な記憶には差がみられなかったが、本研究の教示では抑うつ傾向群は非抑うつ群よりも具体的記憶の有意な減少が認められた。

S04 知覚制御理論における感情の機能に関する一考察

金築 優（帝京平成大学）

感情の機能を解明しようとする理論は様々あるが、本邦においてあまり着目されていない理論として、知覚制御理論（Powers, 1973/2005）がある。知覚制御理論では、人間の行動の機能は、知覚の制御であると考えられる。本発表では、知覚制御理論を取り上げ、感情の機能がどのように捉えられているかについて考察する。感情と個人的目標の関連性という観点から、感情が制御のプロセスにおいて果たしている役割を論じる。

S05 笑いがストレスフルな状況への認知的評価に及ぼす影響

金井雅仁（筑波大学）湯川進太郎（同）

本研究では、笑いがストレスフルな状況への認知的評価に及ぼす影響を検討した。また、認知的評価とパーソナリティとの関係に及ぼす影響も併せて検討した。実験は、ニュートラルな音声を聞かせる条件、ユーモラスな音声を聞かせる条件、ユーモラスな音声を聞かせるが身体表出をさせない条件があった。実験の結果、笑いによって認知的評価は変化しなかったが、認知的評価とパーソナリティとの関係が変化する可能性が示唆された。

- S06 賞賛的アサーションの効用：ソーシャル・サポート、自己効力感、幸福感との関連
佐藤 拓（いわき明星大学）仁平義明（白鷗大学）
本研究では、他者への賞賛、感謝、好意などの表出である賞賛的アサーションに関連する要因とその効用について検討した。賞賛的アサーティブネス、自己効力感、ソーシャル・サポート、幸福感を測定し、各構成概念の関連を構造方程式モデリングによって分析したところ、(1) 自己効力感は賞賛的アサーティブネスを高めること、(2) 賞賛的アサーションはソーシャル・サポートを媒介して幸福感に正の影響を与えることが示唆された。
- S07 覚醒水準と唾液中コルチゾールのサーカディアンリズム—生活リズムの観点から
小形佳祐（東北大学）阿部恒之（同）
社会人の唾液中コルチゾールには明瞭なサーカディアンリズムがあるが、それは定型的な生活リズムによって維持されている可能性がある。本研究では、40名の大学生（男性20名、女性20名）を対象として、12日間の生活記録と、その期間中の1日の覚醒水準・唾液中コルチゾールのサーカディアンリズムの関連を検討した。生活リズムの朝型・夜型は、覚醒水準のサーカディアンリズムと対応していた。コルチゾールについては当日報告する。
- S08 ゴミの不法投棄抑制要因と嫌悪感情
中俣友子（東北大学）平野大二郎（同）阿部恒之（同）
ゴミの不法投棄に影響する要因として、監視カメラの有無、景観の違い（更地、草むら、花畑）、先行するゴミの有無を取り上げ、それらを描いたイラストを対提示し、ゴミの捨てにくさを判断する実験を実施した（一対比較法）。同時に、各要因で喚起される嫌悪感情の評定を行った。その結果、監視カメラの存在と花畑の景観がゴミを捨てにくくし、嫌悪感情も高くなることが示された。

5月11日（土曜日） 口頭発表②

- S09 日本人と中国人の親密なコミュニケーションは何が違うのか？
—未知関係と友人関係を対象にした検討—
木村昌紀（神戸女学院大学）毛 新華（神戸学院大学）
本研究は、未知関係と友人関係を対象に、親密なコミュニケーションを日本人と中国人で比較した。どちらの関係でも、日本人は中国人よりも、外見の魅力や親しみやすさ、社会的望ましさを自己呈示していた。また、両関係とも、日本人のほうが微笑みとうなずきが多い一方、中国人のほうが相手をよく見ている。コミュニケーションをポジティブに認知する程度は、友人関係で日中差がなかったが、未知関係では中国人のほうが高かった。
- S10 東日本大震災・復興活動に対する感情的地域差
Wiwattanapantuwong, Juthatip（東北大学）
本多明生（東北福祉大学）阿部恒之（東北大学）
東日本大震災から2年が経過し、全国からの力強い支援が継続する一方で、震災瓦礫の受け入れ拒否運動など、地域ごとの「温度差」も報道されている。この温度差は復興の妨げになるのみならず、被災地とその他の地域の感情的対立の火種となりかねない。この問題を検討するために、東北地方（激甚被災地・軽微被災地）、東京、京都、神戸、広島計1,100名を対象としてインターネット調査を実施した。

- S11 認知的負荷が賭けの無謀さ・手堅さに及ぼす影響
高田琢弘（筑波大学）湯川進太郎（同）
本研究は、大学生 44 名を対象とし、二重課題による認知的負荷が、賭けの無謀さ・手堅さ、および感情状態と運の知覚の変化に及ぼす影響について、実験的に検討した。実験群の参加者には、ギャンブル課題と平行して単語を記憶するよう求め、統制群には単語の記憶を求めなかった。分析の結果、認知的負荷が与えられた実験群の方が、統制群よりも、快感情と運の知覚の変化が正の方向に大きく、無謀な賭けを行っていたことが示された。
- S12 情動喚起画像の文脈的複雑性の評価—驚愕反射を用いて—
藤村友美（独立行政法人科学技術振興機構 ERATO 岡ノ谷情動情報プロジェクト）
岡ノ谷一夫（同）
情動喚起画像の中には、描かれている場面状況を推測することによって情動を喚起するものもある。本研究では、これを文脈的複雑性と定義し、画像観察中に呈示された音プローブに対する驚愕反射によって評価することを試みた。結果は、文脈的複雑性が高い画像ほど驚愕反射の振幅が小さくなった。これは、場面状況を推測するために画像に注意配分が割かれた結果、外部入力刺激に対する反射が抑制されたためであると考えられる。
- S13 青少年教育施設における長期集団宿泊活動が子どもの情動知能に及ぼす影響
庄子佳吾（国立花山青少年自然の家）
情動知能とは感情の動きを踏まえて、自分や相手の感情をコントロールする能力である。これは子どもの健全な成長を見守るうえで重要な概念であり、教育的にも大きな意味をもつと考えられる。本研究は長期集団宿泊活動が子どもの情動知能に及ぼす影響を明らかにすることを主な目的とし、国立青少年教育施設における 4 泊 5 日以上の教育事業の参加者を対象に、「児童用情動知能尺度」を用いて事業の事前、事後の計 2 回調査を行った。
- S14 化粧品の感触が使用者の感情に与える影響—化粧品使用時の感情評価尺度を用いた検討—
河島三幸（株式会社カネボウ化粧品 価値創成研究所） 引間理恵（同）
化粧品を使用するとき、女性はさまざまな感情を経験している。本研究では化粧品使用時に女性が経験する感情について、感情語を収集・整理した上で化粧品使用時の感情評価尺度を開発した。また、この尺度を用いて塗布感触の異なる化粧品（無着色・無賦香のクリーム）使用時に使用者に喚起する感情を検討した。その結果、「のびの重さ」や「さっぱりとした感じ」などの塗布感触が異なることで喚起される感情が異なることが示された。

5月11日（土曜日） ポスター発表①

- P01 被災地における中学生の不安感情に関する研究—東日本大震災直後の調査結果を中心に—
藤井義久（岩手大学）
公立中学校（1年～3年生）の生徒 520 名を対象にして、「危機状況不安因子」、「評価不安」、「学校不適応」という3つの下位尺度、計 25 項目からなる「中学生生活不安尺度」を作成した。そして、クロンバックの α 係数から信頼性が、うつとの関連から妥当性が確認された。そして被災地における中学生の不安の深刻さが明らかになった。
- P02 友人間の競争事態における感情表出の制御
山本恭子（神戸学院大学）
本研究では、二者間で感情葛藤が生じうる友人間の競争場面を対象として、感情表出の制御を検討した。他者存在（単独・友人）×競争結果（勝・負）の 2 要因参加者間計画により競争課題を実施し、結果フィードバック後の感情表出、主観的感情状態、課題遂行への自己評価を測定した。その結果、勝敗に関わらず、友人群では単独群に比べて笑顔の表出が多かった。一方、主観的感情状態において友人群と

- 単独群の差は見いだされなかった。
- P03 原子力発電に対する態度研究の現在
 本多明生（東北福祉大学）Wiwattanapantuwong, Juthatip（東北大学）
 阿部恒之（東北大学）
 福島第一原発事故は、大量の放射性物質を環境に放出した結果、我が国の広範な地域に深刻な土壌、海洋汚染を引き起こした。同事故によって発生した様々な社会問題を理解するうえでは、原子力発電に対する態度研究から得られる知見が極めて重要な意味をもつ。本研究では、原子力発電に対する態度研究のこれまでの動向を概観する。その後、福島第一原発事故に関する知見を紹介し、今後の研究課題や指針について考察する。
- P04 道徳的アイデンティティと非道徳的行動に対する善悪判断の関係
 寺井朋子（武庫川女子大学）高井弘弥（同）
 大学生 163 名(18~20 歳)に対して質問紙を実施した。ここでは、親しみやすさや公平性などをどの程度重視しているかについて尋ねた道徳的アイデンティティ項目（親しみやすさ・公平・寛容・勤勉・責任感について 3 項目ずつ）と、「図書館で借りた本を返さない」などの身近な非道徳的行動に対して尋ねた善悪判断について分析を行った。
- P05 羞恥表出者に対する観察者のパーソナリティ評価
 一評価の因子構造および表情による評価の違い一
 福田哲也（広島大学）樋口匡貴（同）蔵永 瞳（同）
 羞恥表出者に対する観察者のパーソナリティ評価を扱った研究では、評価がどのような構造を持つのかについて検討されてこなかった。そこで本研究では、羞恥表出者に対して観察者が行うパーソナリティ評価の因子構造を検討した。その結果、表出性、社交性、利己性、消極性という 4 つの因子が得られた。さらに得られた 4 つの因子のうち表出性、社交性、消極性の得点は、羞恥表出者の表情によって変化することが明らかになった。
- P06 主観的感情特性尺度の作成—基本感情に基づいた感情特性の各特徴について—
 平井 花（学習院大学）
 本研究では、基本感情をベースとした主観的感情特性尺度の作成を試みた。質問紙調査（N=192）の結果、 $\alpha_s = .545 - .778$ 、個別情動尺度との相関が $r_s = .258 - .665$ となり、概ね信頼性・妥当性のある尺度が作成された。また、感情調整・レジリエンスの下位項目と各感情特性との間に相関関係が見られた。加えて、各感情に関する追加調査を実施した所、感情特性が主観的感情状態を予測していることが示された。
- P07 児童期における感情的視点取得能力と学校肯定感、適応感の関係
 本間優子（新潟青陵大学）内山伊知郎（同志社大学）
 本研究は、感情的視点取得能力と学校肯定感および適応感の関連を検討した。感情的視点取得能力課題として山田（2010）、学校肯定感尺度として Ladd&Price（1987）の SLAQ の翻訳版である大対ら（2006）、適応感尺度として石田（2009）を用いた。結果として「悲しみ」に対する感情的視点取得能力が高い児童ほど学校肯定感が高く、回避感が低いことが示された。また、友人関係と正の相関が認められた。
- P08 大学生のソーシャルネットワーキングサービスの利用と EQS の相関
 宇津木成介（神戸大学）繁野 茜（同）松本絵理子（同）
 大学生のソーシャルネットワーキングサービス（SNS）利用状況と感情知能との関連について EQS を用いて調べた。対象は 179 名の学生。うち、FACEBOOK のアカウントを持つ 112 名(男子 56 名、女子 56 名)について検討した。友人の数、他者へのコメントの頻度などは、それぞれ EQS の対人対応得点と正の相関が見られた。また友人数が 100 人以下の 41 名に対し、100 名以上と答えた 71 名の EQS 得点は有意に高かった。

P09 印象判断と投資判断にあらわれる学習性不信感の比較

鈴木敦命（名古屋大学）本間喜子（同）

伝聞情報を通じてある人物が信頼できないと学習すると、後にその情報の恣意性が判明してもその人物への不信感は抑制しきれないことを前回報告した。ただし、そうした結果は6段階尺度による印象判断で明確に観測され、お金を貸すか否かの二値的な投資判断でははっきりしなかった。今回は印象判断と投資判断をともに6段階の精度で測定した実験の結果を報告し、学習性不信感の指標としての両者の挙動の違いを明らかにする。

P10 状況による安堵感の差異

柴田利男（北星学園大学）

緊張状態からの解放状況による安堵感と、リラックス状況の安堵感の違いについて、主観的経験および表情表出の2側面から検討した。実験の結果、緊張状態からの解放状況による安堵感では高活性と脱活性が同時に生じており、リラックス状況での安堵感では脱活性が生じ不安感が小さくなる傾向があった。表情表出には差異は見られなかった。

P11 尊敬関連感情の概念構造

武藤世良（東京大学／日本学術振興会）

尊敬感情の概念構造について検討した。大学生を対象に尊敬の類義語18語を呈示し、一対比較法により意味的類似性の評定を行った。階層的クラスター分析の結果、尊敬感情はまず特定の関係性において維持される「人物焦点尊敬・感情的態度」と特定の行為に対して一時的に経験される「行為焦点尊敬・感情状態」の大きく2つに分かれた。また、基本カテゴリーとして、前者には敬愛・心酔・畏怖が、後者には感心・驚嘆があった。

P12 仮設住宅の環境色彩変化が居住者の感情状態および周辺住民の印象評価に与える影響

—2011年東北地方太平洋沖地震による被災地域からの一事例報告—

蓑内絵梨（JFE 鋼板株式会社）大岸英夫（JFE 鋼板株式会社）

松原千春（BASF ジャパン株式会社）森下洋子（BASF ジャパン株式会社）

鈴木結花（東北大学）行場次朗（東北大学）

東北地方のある仮設住宅において、既存の白い外壁を、癒し効果の期待される色彩を施した鋼板でカバーし、居住者の感情状態、居住者および周辺住民の住宅に対する印象を施工前後で比較した。その結果、色彩壁の施工前後で、いずれの評定においてもポジティブな変化がみられた。長らく仮設住宅での生活で住民は不安を抱えているが、この結果から、人々に快適な生活を提供する一つの方法として色彩を活用することの有効性が示された。

5月12日（日曜日） 口頭発表③

S15 感情が会話行動に与える影響—他者の会話行動と性差に着目した検討—

藤原 健（京都大学）大坊郁夫（東京未来大学）

本研究では、話者の感情と会話相手の会話行動が、話者の会話行動に与える影響を検討した。実験参加者は初対面で同性同士の男女大学生84名で、約6分間の会話を行った。その結果、会話前の話者の感情が男性では手振りに、女性では自己接触到影響したのに対して、会話相手の会話行動は男性では自己接触到、女性では手振りに影響することが明らかになった。これらの結果について、対人感受性と行動模倣の観点から考察を行った。

S16 悔しさの持続に関する探索的研究—大学生スポーツ選手を対象に—
手塚洋介（大阪体育大学）

日常のさまざまな場面で、われわれは感情の持続を体験する。本研究では、目標達成が阻害される際に生じると考えられる悔しさに焦点を当て、悔しさがどのように持続するのかを探索的に検討した。大学運動部に所属する学生を対象に、年間を通じての悔しさの持続を回顧的に調査した結果、原因となるイベント直後に最も強く悔しさを感じ、その後は減少していくものの、翌シーズンの開幕が近づくとつれて再上昇することが示された。

S17 デジタルゲームが感情経験に与える影響
木村知宏（東京大学）

本研究では、情動・覚醒質問紙と唾液中 α -アミラーゼ、および特性的自己効力感尺度を指標として用いた実験を行った。その結果、即自的な反応を要求するゲームは活力感を生起させ、特定のゲームに対して長期的なプレイ経験のある熟達者は、熟達していないプレイヤーよりも活力感を長く持続させることが示された。また、特性的自己効力感が高い人は、ゲームプレイによるストレス反応が生じにくい傾向があることも示唆された。

S18 ワインボトルを用いた視線のカスケードモデルの検討

大沼卓也（東北大学） 荒木茂樹（サッポロビール株式会社） 坂井信之（東北大学）

Shimojoら(2003)の提唱する視線のカスケードモデルについて検討した。本研究では、視覚刺激としてワインボトルを用い、参加者に好きな方を選ぶ「選好判断課題」と色が明るい方を選ぶ「明るさ判断課題」からなる二対選択課題をおこなわせた。課題遂行中の参加者の視線の動きを記録・分析した結果、選択する刺激への視線の偏りがみられた。本研究結果から、視線のカスケードモデルの再現が確認されたが、同時に刺激依存性も示唆された。

5月12日（日曜日） ポスター発表②

P13 FAST 学習が表情識別に与える効果—初報
趙 紫薇（神戸大学） 米谷 淳（同）

表情模倣が他者の感情理解、特に表情識別の反応時間や的中率にポジティブな効果を与えることを直接確かめた研究はまだなされていない。本研究では、FAST 学習の有無が表情識別および表情識別の際の表情模倣に与える効果について、日本人と中国人を対象にし実験を行い検討する。実験協力者を統制群、模倣教示群、FAST 学習群の3つの群に分ける。表情模倣とFAST 学習をさせた群は表情識別の的中率が上がった傾向が得られた。

P14 反すうにおけるワーキングメモリ内容の更新過程
西村春輝（筑波大学） 望月 聡（同）

Joormann & Gotlib (2008) は、大うつ病者はワーキングメモリからネガティブな情報を排除することが困難であることを指摘し、このような抑制機能の欠如が反すうを悪化させるとしている。本研究では、感情価のニュートラルな刺激を用いて、ワーキングメモリ内容の更新機能と抑うつ反すうの関連を検討した。

P15 日本語版 Dickman Impulsivity Inventory の信頼性と妥当性の検討
小橋真理子（立正大学） 井田政則（同）

Dickman (1990) は、衝動性には Dysfunctional impulsivity (DI) と Functional impulsivity (FI) との2面性があることを見出し、これら衝動性を測定する Dickman Impulsivity Inventory (DII) を開発した。加賀・若林 (2010) は、この DII の日本語訳をおこなっている。そこで本研究では、この日本語版 DII の精度を確認するために、この尺度の信頼性と妥当性の検討を行う。研究1では因子的妥当性および信頼性を、研究2では BIS-11・RRS・認知的熟慮性・衝動性尺度を用いて構成概念妥当性を検討する。

- P16 身体の覚醒の低下はサイコパシーとリスク選択を結びつけるか—媒介分析による検討
大隅尚広（日本学術振興会特別研究員／慶應義塾大学）
梅田 聡（慶應義塾大学）大平英樹（名古屋大学）
リスク選択における身体反応とサイコパシーの関係を検討した結果、サイコパシー傾向が高いほどリスク選択が多く、判断中の心拍数の上昇が小さいことが示された。さらに、サイコパシーの冷淡さ因子とリスク選択の関係は心拍反応による間接効果が認められたが、衝動性因子では認められなかった。すなわち、サイコパシーはリスク選択を助長するが、覚醒の低下がそれを媒介するか否かはサブタイプで異なるということが明らかとなった。
- P17 大学生の震災ボランティア参加を左右する要因の検討
木野和代（宮城学院女子大学）
宮城県内の大学に在籍する学生を対象に 2011 年 10 月～11 月に震災ボランティアに関する調査を行った。そして震災ボランティアへの参加経験をもつ学生と、参加意欲をもちながらも参加に至らなかった者の間で、参加理由（動機）および震災ボランティアに関するイメージの違いを検討した。また、参加経験をもつ者については、参加前後でのイメージの変化と再参加の有無の関連を検討した。
- P18 （発表取消）
- P19 笑いが身体的・精神的健康に及ぼす影響
藤原裕弥（東亜大学）
近年、笑いが身体的・精神的健康に影響を及ぼすことが指摘されている。本研究では、快体験などによって喚起される自発的笑顔、快感情を伴わず意図的に作る意図的笑顔、ペンホールディング法による機械的笑顔が、ストレス軽減に及ぼす影響を検討した。その結果、自発的笑顔条件では、アミラーゼ活性に変化は認められなかった。一方、意図的笑顔条件で非活動的快気分が上昇すると、アミラーゼ活性が低下することが示された。
- P20 「居場所感」尺度の作成
岡本卓也（信州大学）口田江里（同）
近年、居場所についての研究が盛んに行われている（例えば堤(2002), 則定(2008)など）。しかし、これらの研究では、具体的に自分が所属する集団において、自分の居場所があると感じているかという視点ではなかった。そこで本研究では、自分の所属する集団における居場所感尺度を作成した。その結果、「受容・声かけ」「役割意識」「自然体」「目上からの受容」「共通話題性」の 5 因子からなることが確認された。
- P21 親密な他者に対する攻撃行動が生じるメカニズムの検討
伊藤義徳（琉球大学）新垣美羽（医療法人那覇西会 那覇西クリニック）
本研究は、親密な他者に対する怒り感情や攻撃行動が生じる認知的メカニズムについて、親密な他者に対しては過度な期待感が自ずと生じ(仮説 1)、これが裏切られた時に怒り感情や攻撃行動が生じる(仮説 2)という仮説を立て、この仮説を検証する二つの研究（調査研究と実験研究）を行った。仮説 1 は検証されたが、仮説 2 は恐らく指標の問題から、十分に効果を抽出できなかった。

P22 情動はどのような神経機構によりその後の選択行動を導くか

—機能的磁気共鳴画像法 (fMRI) による検討—

片平健太郎 (JST ERATO 岡ノ谷情動情報プロジェクト/理研 BSI/東京大学)

松田佳尚 (JST ERATO 岡ノ谷情動情報プロジェクト/理研 BSI)

藤村友美 (JST ERATO 岡ノ谷情動情報プロジェクト/理研 BSI)

上野賢一 (理研 BSI) 浅水屋剛 (理研 BSI) 鈴木千里 (理研 BSI) 程 康 (理研 BSI)

岡ノ谷一夫 (JST ERATO 岡ノ谷情動情報プロジェクト/理研 BSI/東京大学)

岡田真人 (JST ERATO 岡ノ谷情動情報プロジェクト/理研 BSI/東京大学)

本研究では、行動の結果生じた一般的な情動的事象がどのような神経機構によりその後の選択行動に影響するかを検討した。情動的画像が選択の結果として呈示される課題遂行時の脳活動を機能的磁気共鳴画像法により計測し、強化学習モデルをベースとした解析を行った。その結果、主に前部島皮質や線条体内の異なる領域が快情動・不快情動それぞれの予測誤差と対応した活動を示し、その後の選択に寄与していることが示唆された。

P23 大学教員は親よりイタイ・サムい・ウザくない

—大学生における身体表現性対人不快感の研究(1)—

生駒 忍 (川村学園女子大学)

若い世代を中心に、他者に対する不快感を「ウザい」「キモい」「サムい」といった形で体験し表現する様式が定着しつつある。身体感覚的対人不快感とでも呼ぶべきこれらの経験頻度を、大学生を対象とした質問紙調査で検討した。121名の評定から、「ムカつく」と「ウザい」が比較的多く経験されていること、相手が友人・親・大学教員の場合でそれぞれ起こりやすい不快感のパターンが異なることが明らかになった。

P24 感謝の対象に関する検討

戸梶亜紀彦 (東洋大学)

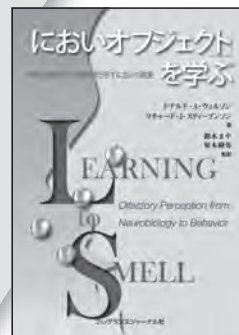
感謝という感情の研究は、蔵永(2012)においていくつか検討されているが、まだ初期段階であり、研究の蓄積が必要とされている。そこで本研究では、KJ法で行われた蔵永(2012)を参考とし、感謝の対象に関してクラスター分析によって検討を行った。その結果、環境感謝型、支援感謝型、平穏状況感謝型、他者コスト感謝型の4つに分類された。これらに基づいて、感謝という感情について考察を行った。

「においオブジェクト」を学ぶ

神経生物学から行動科学が示すにおいの知覚

ドナルド・A・ウィルソン リチャード・J・スティーブンソン 著
鈴木まや 柁木隆寿 監訳

A5判 400頁 定価 3,675円(本体 3,500円)



ISBN 978-4-89479-228-9

私たちはいったい何を“におって”いるのか？

におい研究の新たな視点

なぜコーヒーはあのような香りがするのだろうか？私たちが感じている「におい」は、ただ単に嗅いでいる物質の特性によって決まるものではない。視覚や味覚といった嗅覚以外の感覚、そして、記憶や文化などもまとめて、私たちはその「におい」を感じているのである—ひろく「におい」を学ぶための一冊。

ドナルド・A・ウィルソン

ニューヨーク大学医学部教授（小児、青年精神医学）
においの知覚や記憶、知覚学習に関わる嗅覚野の役割に関する研究の第一人者。

リチャード・J・スティーブンソン

オーストラリアのマッコリー大学心理学教授
ヒトの摂食行動に関わる実験心理学者として、においや風味、嫌悪などの関連領域で興味深い研究を数多く報告している。

- | | |
|--------------------|-----------------------|
| 第1章 動物とヒトでの嗅覚系の機能 | 第5章 ヒト以外の動物におけるにおいの弁別 |
| 第2章 嗅覚理論の歴史と比較 | 第6章 ヒトにおけるにおいの質の弁別 |
| 第3章 受容機構 | 第7章 においの記憶 |
| 第4章 刺激の強度と知覚的な質の関係 | 第8章 インプリケーション：本書の意義 |

ストレスと化粧の社会生理心理学

阿部恒之 著（東北大学教授）

B5判 240頁 定価 3,150円(本体 3,000円)

化粧の生理心理学的効果、ストレス軽減効果など、化粧行為の社会的効用を研究したり、学ぶうえでおすすめしたい書です。東北大学などで教科書として取り扱われています。



ISBN 978-4-89479-058-2

香りの機能性(生理・心理的作用)と
効用の学際的専門誌 アロマリサーチ
Journal of Aroma Science and Technology

AROMA RESEARCH

お得な年間購読をおすすめします。

季刊(年4回/2,5,8,11月の28日発売)

A4判 定価 2,100円(本体 2,000円)送料別

年間購読料 8,000円(送料込)※年間購読は前払い制

53 特集「においをはかる」

2013/2月発行

においの強さをはかる—三点比較式臭袋法による臭気の強さの測定 におい・かおり研究家 堀内哲嗣郎
畜舎のにおいをはかる～飼料制御による臭気の軽減と畜環研式ニオイセンサの開発～

..... (財)畜産環境整備機構畜産環境技術研究所 山本朱美

都市ガスのニオイをはかる 東京ガス(株)商品開発部ソリューション開発グループ暖房・厨房開発チーム 松葉佐智子

匂いコードセンサによる匂いの測定と可視化 九州大学大学院システム情報科学研究院 林 健司

脳計測でにおいをはかる—fMRI(機能的核磁気共鳴画像法)・NIRS(近赤外分光法)で測る—

..... 東北大学大学院文学研究科心理学研究室 坂井信之、斉藤幸子味覚嗅覚研究所 斉藤幸子

最近の官能評価手法TDSに関する検討 高砂香料工業(株) 國枝里美

ほか

お問合せ・ご注文は

フレグランスジャーナル社

TEL.03-3264-0125 <http://www.fragrance-j.co.jp>

FAX.03-3264-0148 東京都千代田区飯田橋1-5-9 精文館ビル1F

☆HP・お電話・FAXからご注文を承ります！また、併設「香りの図書館」でも最新号・バックナンバーほか、香りに関するあらゆる書籍等をご覧頂けます！

北大路書房

〒603-8303 京都市北区紫野十二坊町12-8

☎ 075-431-0361 FAX 075-431-9393

http://www.kitaohji.com

振替 01050-4-2083

▶価格は定価(税込み)で表示しています

仮想的有能感の心理学

—他人を見下す若者を検証する— 速水敏彦編著 A5・244頁・2940円 他人を見下すことで自身の有能さを保持する「仮想的有能感」。その概念定義と測定、隣接概念との比較、仮想的有能感を持つ人の個人的特徴、その背景要因、文化差、問題行動との因果性についての実証研究を紹介。

紛争と平和解決の社会心理学

—集団間の葛藤とその解決— D. バル・タル編著 熊谷智博・大淵憲一監訳 A5・392頁・4200円 紛争の発生から、和解プロセスを通じてその解決と平和構築に至る全サイクルを、実証データを示しながら体系的に記述。「紛争」と「平和構築」における非対称性について、それぞれの心理的メカニズムを解明していく。

自己意識的感情の心理学

有光興記・菊池章夫編著 A5・318頁・3885円 自己意識的感情研究の本邦初の本格的な研究書。単に自己意識に絡む感情という定義にとどまらない高次の諸感情の分析を精緻な理論構成で提供する。進化的・文化的基盤を念頭に、心理学の各領域での研究動向を加え、今後の研究の方向性も示す。

改訂新版 初めての心理学英語論文

—日米の著者からのアドバイス— D. シュワープ・B. シュワープ・高橋雅治著 A5・184頁・1995円 最新のAPAパブリックマニュアル(第6版)に合わせ全面改訂。査読と投稿という両面において英語論文に長年携わってきた執筆陣が、海外ジャーナルへの投稿の際、気をつけるべきポイントを詳説。

友だちとのかかわりを促すモチベーション

—自律的動機づけからみた友人関係— 岡田 涼著 A5上製・208頁・3990円 「なぜ友人と親しくするのか」という観点から、友人関係と動機づけを結びつけた著者独自の研究知見を中心に、国内外の関連研究を幅広く見渡すことにより、特に自律的な動機づけの役割や友人関係が形成・維持されるプロセスを考察する。

沈黙の螺旋理論 [改訂復刻版]

—世論形成過程の社会心理学— E. ノエル=ノイマン著 池田謙一・安野智子訳 A5・368頁・4935円 少数派は孤立を恐れて沈黙し、多数派は声高になる。沈黙は雄弁を生み、雄弁は沈黙を生むというこの螺旋状のプロセスの中で、少数派はますます少数派になっていく……。世論研究の名著、待望の復刻版。

現代の認知心理学6 社会と感情

日本認知心理学会監修 村田光二編 A5・320頁・3780円 現代の社会的認知研究をベースに、社会的場面における認知の問題、認知と相互に影響し合う感情の問題を検討する。適応的行動を生み出すメカニズム、自動的過程と意識的過程の役割などの視点を軸に、社会的認知の本質に多面的に迫る。

増補改訂 SPSSのススメ1

—2要因の分散分析をすべてカバー— 竹原卓真著 B5・300頁・3360円 2要因の分散分析を対応のある・なし全パターンについて網羅。今回新たに、グラフ機能や分析結果を論文にまとめていく際の注意点を増補解説。これ1冊で分析作業の流れの把握から論文執筆までたどり着けるよう工夫した。

認知心理学研究の現在を一望! 現代の認知心理学 [全7巻]

日本認知心理学会 監修

第1巻 知覚と感性 三浦佳世 編

第2巻 記憶と日常 太田信夫・巖島行雄 編

第3巻 思考と言語 楠見 孝 編

第4巻 注意と安全 原田悦子・篠原一光 編

第5巻 発達と学習 市川伸一 編

第6巻 社会と感情 村田光二 編

第7巻 認知の個人差 箱田裕司 編

●各巻A5判・約350ページ・3,780円

◆◆ 新しい学会運営基盤の構築 ◆◆

学会事務局機能強化・編集事務局機能強化・学術講演会事務局機能強化

～学術情報発信機能強化～

信用・信頼・実績

国際文献社

多様な要望に応えられる経験豊富な業務実績

慣習見直しと財務基盤の確立をサポート

学術団体が抱える諸問題を解決

学術研究団体の発展・学術振興を総合的にサポート

学術領域において市場価値の高いコアコンピタンスを身につけたスタッフが、諸問題に対し適切に対応します



新しい学会運営基盤の構築



研究活動の活性化

経済産業省選定「雇用創出企業 1400 社」に選定されています。学術に携わりたい方の採用活動に力を注いでいます。

【採用実績】平成 23 年 11 名、平成 24 年 1 名、平成 25 年 14 名

青山学院大学文学部／國學院大學文学部／成城大学大学院文学研究科／専修大学商学部／筑波大学人間学群／東京外国語大学外国語学部／東洋大学法学部・文学部／法政大学キャリアデザイン学部／日本大学文理学部／弘前大学大学院農学生命科学研究科／立教大学大学院異文化コミュニケーション研究科／明治大学文学部／山形大学人文学部

お問い合わせ：

株式会社 国際文献社

162-0801 東京都新宿区山吹町358-5 Tel. 03-3362-9741 E-mail: sales@bunken.co.jp

2012 年 11 月 から「国際文献印刷社」から「国際文献社」に社名を変更しました。



法律文化社

〒603-8053 京都市北区上賀茂岩ヶ垣内町71

●価格は定価（税込）

TEL 075 (791) 7131 FAX 075 (721) 8400

http://www.hou-bun.com/

法と心理学

◆法や裁判を科学的に分析する方法を提示。

藤田政博編

7月刊行予定



●目次●

第一章 安全保障の不等性

第二章 サンゴ環礁世界の絆

第三章 リスクを見せる―原状回復のための集団避難

第四章 リスクを訴える―アメリカへの賠償請求

第五章 リスクに立ち向かう―「帰還プロジェクト」

第六章 リスクを生きる―帰還プロジェクトのローカライゼーション

放射能難民から生活圏再生へ

中原聖乃 著

●マーシャルからフクシマへの伝言 ●2520円

マーシャル諸島に生きる人々に焦点をあて、生活圏復興の軌跡をたどる。現地に溶け込み、調査・研究した著者がつむぐ足かけ15年の民族誌。

●目次・執筆者●

■総論

第1章 大災害後の犯罪…………… 齊藤豊治

第2章 過去の災害と犯罪…………… 齊藤豊治

第3章 阪神・淡路大震災後の犯罪現象の比較…………… 平山真理

第4章 阪神・淡路大震災後の犯罪現象…………… 岡本英生

第5章 阪神・淡路大震災後の犯罪防止活動…………… 松原英世

■海外の大災害と犯罪

第6章 ハリケーン・カトリナ後のアメリカ南部の危機…………… エミリー・ベースロット

第7章 東日本大震災の津波への対応は適切だったか…………… 横山 実

第8章 東日本大震災における助け合いと犯罪…………… 阿部恒之

第9章 東日本大震災における助け合いと犯罪…………… 阿部恒之

■第2部 原発と企業・環境犯罪

第10章 犯罪学からみた原発事故…………… 竹村典良

第11章 経済・企業犯罪研究からみた福島原発事故…………… マイケル・レウィ&トム・ホーリック&ジョンズ

第12章 地震・断層研究からみた柏崎刈羽原発の危険性と福島原発事故…………… 立石雅昭

第13章 原発訴訟弁護団からみた浜岡原発の危険性と福島原発事故…………… 青木秀樹

第14章 福島原発事故と刑事責任…………… 松宮孝明

第15章 近未来の大災害と犯罪に備える…………… 齊藤豊治



大災害と犯罪

齊藤豊治 編 ●3045円

3・11を含む国内外の大災害と犯罪、さらには原発問題と企業・環境犯罪について、刑事法学、社会学、心理学、地震学等の観点から実証的に検証。理性的で適切な犯罪対策を模索する。

ナカニシヤ出版

TEL 075-723-0111

〒606-8161 京都市左京区一乗寺木ノ本町15

FAX 075-723-0095

http://www.nakanishiya.co.jp/〔表示は税込価格〕

感情的動機づけ理論の展開

やる気の素顔

速水敏彦 著

認知よりも感情に支えられた人間の行動の動機づけに着目した、第一人者による動機づけ理論の新展開！

1890円

感情コンピテンスの発達

C・サーニ 著／佐藤 香 監訳

対人関係で生じる複雑な感情に対処する能力はどのように発達するのか。子どもの感情経験を生き生きと描いたエピソードなど、豊富なデータをもとに解説。

5250円

感情研究の新展開

北村英哉・木村 晴編

認知や思考のシステムに感情はどのように絡んでくるのか？ 主要理論や研究方法から応用トピックまで最先端の研究を集めた、基礎的研究書。

2940円

ポジティブ心理学

島井哲志 編

充実した人生を送っているとき何が起きているのか？ 幸福感と人間関係、サクセスフル・エイジングなどポジティブ心理学の最新の研究成果を結集。

3150円

幼児期・児童期の感情表出の調整と他者の心の理解

対人コミュニケーションの基礎の発達

溝川 藍 著

「見かけの感情」をどう理解するようになるのか、実験研究から解明する。

5985円

幸福感を紡ぐ

人間関係と教育

子安増生・杉本 均編

GNH(国民総幸福量)で注目を集めるブータンでのフィールドワークなどから、幸福感を支える「教育の力」を示す。

2310円

コンピテンス

個人の発達とよりよい社会形成のために

速水敏彦 監修

陳惠貞・浦上昌則・高村和代・中谷素之編

動機づけや適応力など、社会で生きる能力「コンピテンス」に迫る。

2940円

感じる情動・学ぶ感情

感情学序説

福田正治 著

なぜ感情があるのか？ 進化論的感情階層仮説をもとに人間の感情の根源とその在り処を多角的に議論する。

2730円

感情と表象の生まれるところ

栗原 隆編

いま人間の「感性」が失われつつあるという危機感の下、心理学・哲学・社会学・美学・文学など多彩な観点から、人間の「心の動き」に迫る。

2730円

ポジティブ心理学再考

尾崎真奈美 編

傷ついたり心の回復のために――。東日本大震災の語りをはじめ、苦しみからの成長に向き合う第二のポジティブ心理学運動の全容を解説する。

2310円

中学生のための怒りのコントロール

心理教育プログラムの開発

桜井美加 著

中学生の怒り感情に関する調査から彼らの怒りへの反応を明らかにし、学校に最適な楽しい心理教育を提案する。

6405円

幸福を目指す

対人社会心理学

対人コミュニケーションと対人関係の科学

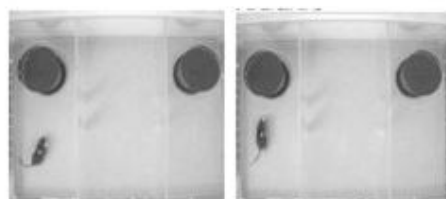
大坊都夫 編

人間関係を悩むのをやめ、皆が幸せな社会へ、社会心理学の視点から提言。

3150円

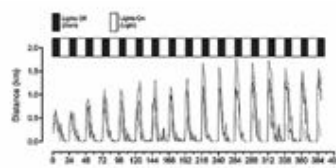
3-CHAMBERED SOCIAL TEST CAGE

社会性行動実験



マウス用ワイヤレス回転ケージ（無線式）

運動量計測システム



Task	Sex	Strain	Age	Weight	Rotations
1	♂	Swiss	8W-12D	25	14,000
2	♂	Swiss	8W-12D	25	14,000
3	♂	Swiss	8W-12D	25	14,000
4	♂	Swiss	8W-12D	25	14,000
5	♂	Swiss	8W-12D	25	14,000
6	♂	Swiss	8W-12D	25	14,000
7	♂	Swiss	8W-12D	25	14,000
8	♂	Swiss	8W-12D	25	14,000
9	♂	Swiss	8W-12D	25	14,000
10	♂	Swiss	8W-12D	25	14,000
11	♂	Swiss	8W-12D	25	14,000
12	♂	Swiss	8W-12D	25	14,000
13	♂	Swiss	8W-12D	25	14,000
14	♂	Swiss	8W-12D	25	14,000
15	♂	Swiss	8W-12D	25	14,000
16	♂	Swiss	8W-12D	25	14,000
17	♂	Swiss	8W-12D	25	14,000
18	♂	Swiss	8W-12D	25	14,000
19	♂	Swiss	8W-12D	25	14,000
20	♂	Swiss	8W-12D	25	14,000
21	♂	Swiss	8W-12D	25	14,000
22	♂	Swiss	8W-12D	25	14,000
23	♂	Swiss	8W-12D	25	14,000
24	♂	Swiss	8W-12D	25	14,000
25	♂	Swiss	8W-12D	25	14,000
26	♂	Swiss	8W-12D	25	14,000
27	♂	Swiss	8W-12D	25	14,000
28	♂	Swiss	8W-12D	25	14,000
29	♂	Swiss	8W-12D	25	14,000
30	♂	Swiss	8W-12D	25	14,000
31	♂	Swiss	8W-12D	25	14,000
32	♂	Swiss	8W-12D	25	14,000
33	♂	Swiss	8W-12D	25	14,000
34	♂	Swiss	8W-12D	25	14,000
35	♂	Swiss	8W-12D	25	14,000
36	♂	Swiss	8W-12D	25	14,000
37	♂	Swiss	8W-12D	25	14,000
38	♂	Swiss	8W-12D	25	14,000
39	♂	Swiss	8W-12D	25	14,000
40	♂	Swiss	8W-12D	25	14,000

Five-Nine Hole Nose Poke Package

探索行動,学習実験の評価



動物実験を、いかに数値化して現せるか！

あらゆる装置の製造も賜われます。

BSi BrainScience・idea.Co.,Ltd.

株式会社 ブレインサイエンス・イデア

本社 ■大阪市淀川区西中島6-7-8 大昭ビル 3F
TEL: 06(6307)7311 e-mail: info@brain-si.com
支店 ■名古屋市中川区草平町1-39-1 アクティブ河清 C棟
TEL: 052(355)5388 e-mail: info@brain-si.com

URL <http://brain-si.com/> 資料ご請求は e-mail: info@brain-si.com

大会組織

日本感情心理学会第21回大会 大会実行委員会

委員長：阿部恒之〔東北大学〕

事務局長：坂井信之〔東北大学〕

委員：辻本昌弘〔東北大学〕

委員：本多明生〔東北福祉大学〕

委員：上原俊介〔東北大学〕

委員：シュターチップ・W〔東北大学（大学院生）〕

〒980-8576 仙台市青葉区川内 27-1
東北大学大学院文学研究科心理学研究室内
日本感情心理学会第21回大会実行委員会
E-mail: jsre2013@sal.tohoku.ac.jp

共催

東北大学大学院文学研究科

協賛（ご承認順 敬称略）

仙台観光コンベンション協会

フレグランスジャーナル社

北大路書房

法律文化社

ナカニシヤ出版

国際文献社

ブレインサイエンス・イデア

サッポロビール

サントリー グローバルイノベーションセンター

日本クレア